

住み慣れた地域でその人らしくいられることの大切さ。

だいじょぶにゃん通信

2020年4月1日 第6号(年2回 春・秋 発行)

のぞみホームは1993年7月1日この地に生まれ26歳になりました!

「だいじょぶにゃん通信6号」発行の時期となりました。ご近所さんから「てんぶらの会でどうですか」とフキノトウを頂いたり、ホームの庭のクリスマスローズが咲き出したりとだんだん春らしくなってきました。

そんな春のウキウキした気分とは裏腹に花粉症が始まったり、運営のあれやこれやが心に引っ掛かりなんだか少々ダメージを受けてるなあと感じることがあります。そんな時の今の私の気晴らしは、①ギターの練習に没頭して別の世界に行く。②片付けをしまくる。③飼い犬とネコを必要以上に可愛がる。④本屋に行く。⑤なんでもいから笑ってみる。などなど。

それでもどーにもならない時は、ただただ人に話を聞いてもらう。そして「そーだそーだ。なんとかなるぞ!」「そーだそーだ。あなたは悪くない!」と共感してもらうことでなんだか安心し、味方がいーっばいいるなあという気になってほっとする。という人頼み作戦です。

そして、そんな人たちのおかげで、改めて自分を律して頑張らねば…という気持ちになるのです。さて、今回「だいじょぶにゃん通信6号」を発行するにあたり、「のぞみホーム」にかかわってくださっている方々に原稿をお願いすることになりました。あの人にもこの人にもと沢山の方たちが頭に浮かびました。沢山の方々となつなってきたなあ改めて再確認すると同時に、昨年再結成された「のぞみホームを応援する会」や「みんなの食堂」に料理を作る側や食べる側で参加してくれている方など新たなつながりなどもあり、そこでやっぱり人に助けられていることに気づかされます。

「のぞみホーム」が人とのつながりを大事にして続けてこられたことに感謝しつつ、やはり人頼み作戦で、みなさん「だいじょぶにゃん通信秋号」の原稿の依頼がきたらぜひ快諾をお願いいたします。

(のぞみホーム 奥山 久美子)



のぞみホームの静かな力

ななしや 七七舎 代表 北川郁子

「のぞみホーム」を立ち上げたとき、施設長の奥山久美子さんは25歳だったという。

『のぞみホームの静かな力』という本があってその編集で関わったのが、2003年。この時奥山さんがいくつだったかの不明だが、立ち上げから10年くらいがたっていたと思う。

スタッフも増えてきて、理念をスタッフに伝えておきたいというのが出版の動機の一つだった。

そのあとも、数年に1度はいろいろな用事で「のぞみホーム」を訪ねてきた。

建物や事業は大きくなったり小さくなったりしていたが、猫はいつもいた。アンちゃんという大きな猫がいて、打ち合わせしていると、テーブルに横たわって話し合いに参加していた。台所に、猫用の皿がいくつも並んでいたこともある。あるときは、野良猫が産んだという生まれたてのキジトラの子猫が5~6匹、マットレスの間で暴れてたこともある。お年寄りも猫もあ

りのままで大切にされている。そういや、犬もいた。

「なんか面白いところなんだよね」とか言われて、栃木県社協の人に連れていってもらったのが初めて。そこであった奥山さんは、とても静かな人だった。施設ではスタッフは明るく元気な人がいいという定説があるが、ほんとにそうかな?と思わせてくれたのも奥山さんだ。自分がいつか認知症になって混乱することがあったり、体が動かなくなって寝がえりも打てなくなってしまったとき、こんな人がそばにいて、声をかけてもらえたらうれしいな、と思った。

奥山さんにも「のぞみホーム」にも、いろんなことがあっただろう。その時々課題を乗り越えながら、その経験が力になってきたのかなと思う。いまは地域でのさまざまな取り組みに発展してきている。

これからも「のぞみがあるから、だいじょうぶ」そんな地域の安心でいてほしいと願っている。

2019年度の報告

盛りだくさんの2019年でした。

スタッフ9名とお年寄り7名での1泊旅行。旅行に行く！と決まった日から、旅行当日まで「どこに行くんだっけ？私も行けんだっけ？」のお年寄りたちの確認作業が毎日続きました。そして素晴らしいチームワークで楽しい思い出がたくさんできました。

また、「のぞみホームを応援する会」が再結成されその活動が始まったり、「みんなの食堂」が地域の方々のお手伝いで月に1回から毎週金曜日にオープンできたりと地域へ向けての活動が少しずつですが充実してきています。「みんなのハウス」はいつでも地域に向けて開放しております。

4月	地域の方々と家族信託・相談関係の勉強会 (結城司法書士) 毎月第2金曜日でんぷらの会始まる (みんなの食堂)
5月	ホームの庭が整備される
6月	ギター教室始まる(ギタースタジオ119壬生教室) ミニ畑ができる
7月	のぞみホームを応援する会再結成される
8月	のぞみホームを応援する会活動開始 第7回運営推進会議
9月	馬頭温泉、千本松牧場一泊旅行(16名で) Facebook開始 だいじょぶにゃん通信5号発行 RUN伴中継地点として参加
10月	第1金曜日からあげの会 第3金曜日カレー&パスタの会 始まる (みんなの食堂すべての金曜日がオープンとなる)
11月	のぞみ会第21回理事会 年末お楽しみ会 大掃除
12月	みんなのハウスにフリーWi-Fiつながる 地域の方々、応援する会と餅つき大会 スタッフ1名採用(看護師)
1月	地域の方々と火災避難訓練実施
2月	第8回運営推進会議
3月	みんなのハウス運営委員会



応援する会
ペットボトル回収



馬頭温泉&千本松牧場
一泊旅行



みんなでカンパイ！
年末お楽しみ会

新スタッフ登場

坂入 美穂子

他施設をやめ、さあこれからの人生どうしましょうかと悩んでいた時に、出会ったのが「のぞみホーム」であった。

過去に自分の亡き母も最期までお世話して頂き、大変有難く思っていたホームであったので、この場所でもう一度、老人との関わりをもてることに嬉しく思えた。

さて、「のぞみホーム」に充事し、まずお年寄りににどの様に接していくのか不安、困惑を多くもっていたが、一人一人とても明るく素直な方ばかりで、とけ込み易かったのを覚えている。時にはきれてしまったり口喧嘩をする方もおられるが、これは仕方がない。一人一人個性、感情があるのだから。ここを上手にかかわせるスタッフの素晴らしいことも実感した。自分自身、数ヶ月過ぎた今も“今日はどうしよう”“何をしておいたら良いのだろう”と毎日困惑しているのが本音だ。以前から老人看護、介護の難しさは痛感しており、この年齢まで解決策がでていないのが現状だ。

老人とてプライドもあり、自分なりの考えももっておられる。それを傷つけることなく尊重しつつ、ニーズにそった援助、介護をしていけたらと思う。「のぞみホーム」の理念である“誰もがその人らしく暮らし続けること”なんて素晴らしいことであるか。

自分自身、あと何年関わっていくことができるのか不安も多いが、全スタッフの意見、アドバイス、時にはカンファレンス等も行って頂き、少しでも理念に近づくことができたら本望である。

一人一人を大切に、寄り添う気持ちを忘れずに手助けしていくことのできる「のぞみホーム」のいちスタッフでいられたらと考える。



3月 お花見会



「のぞみホームを応援する会&のぞみホーム」主催のぞみホームの桜を愛でる。どなたでもどうぞ。

9月 初秋の一泊旅行



海に向かってバカヤローと叫んでくる会



12月 年末お楽しみ会



ニッコリ笑ってハイチーズ!

年末お楽しみ会

6月 パーベキュー



のぞみホームのお庭でお年寄りとパーベキュー。

2020年度

新年度の予定

のぞみホームでは今年も
あんなイベントから
こんなイベントまで絶賛計画中!
皆さんどうぞお楽しみに!

11月 第22回 のぞみ会理事会



「第22回のぞみホーム理事会」

7・8月 夏休み企画



ハウスのデッキはかき氷屋さん。
どなたでもどうぞ。

12月 餅つき大会



みんなでついたお餅は格別!

「のぞみホームを応援する会」恒例の餅つき大会

1月 避難訓練



皆さんと共同火災避難訓練



のぞみ会を支援して下さる
みなさまから
寄稿いただきましたにゃん
みなさまご支援ありがとにゃん



田上税務会計事務所 田上 拓

私は栃木市にある田上税務会計事務所に務めています。のぞみホームの会計監査を私が担当して4年が経ちました。のぞみホーム発足当時の担当は私の父である所長、そして次は長男、3女、そして3男の私と引き継いできました。

のぞみホームとは個人的にもお付き合いをさせてもらっています。みんなの食堂の「天ぶらの会」に参加してギターを弾いたり、夏のお祭りで生ビールを頂いたり、薪ストーブの薪の情報を頂いたりといった関係です。

私は樹木が好きなので、ホームにあるモクレンの花が咲く時期が好きです。ホームのモクレンの樹齢はわかりませんが、立派な木で毎年独特な色の花を咲かせてくれます。この木をみていると、昔からここに立って、「のぞみホーム」のスタッフや入居者を静かに見守ってきたのだなあ、と思います。モクレンの花言葉を調べてみたら、「自然への愛」「持続性」だそうです。「のぞみホーム」にピッタリですね。私もこのモクレンには適いませんが、これからも「のぞみホーム」の力になれると思っています。

田上税務会計事務所所長 田上 中

私は1930年12月生まれで、今89歳です。今も私が現役で自由業ができているのは、感謝です。また、「のぞみホーム」の事業が始まる契機を作った、宇井先生との関わりもあって、私も早くから、のぞみ会の支援者となって今日に至ります。私は幼少のときは病弱でしたが、10歳ぐらいから健康になり、旧制中学校は戦争中だったので、軍国主義の教育を受けました。銃を担いで実弾射撃や長距離行軍などの厳しい軍事教練を毎日うけました。その経験のためか体力が付き、昨年くらいまではウォーキングを毎朝1時間、10年前までは信州の高い山々を登り抜きました。しかし今は、不覚にも転倒して、椎間板を痛め、コルセットを下腹部につけています。「今思うこと」は“気候の温暖化で地球の未来に危険が迫っていること。”この問題をそれぞれが、自分のこととして発言行動することです。私は「小水力地域発電の会社」に投資しました。みんなで自然エネルギー社会とするため取り組み、子孫に安心安全な地球を残しましょう。

蔵の街診療所

蔵の街診療所院長 福地 将彦

こんにちは。蔵の街診療所の福地と申します。医療法人アスムス入職と同時に「のぞみホーム」の診療に携わらせてもらうようになり、早いものでまる15年の時間が過ぎようとしています。(のぞみへの訪問診療は2000年から)

しかし、「診療」とは名ばかりで、実際には、「のぞみホーム」に出向いて奥山施設長からお年寄りの生活身体状況・思いなどを教えてもらい、それに沿う形で生活指導や薬の調整を行い、場合によっては「のぞみホーム」での最期を見届けさせていただくという感じです。

在宅医療である意味「苦勞する部分」であり「醍醐味」でもある、お年寄り本人とそのご家族の気持ちのすり合わせを、「のぞみホーム」ではいつの間にか、やってくれています。これは、スタッフの皆さんが、生活しながら信頼関係を築いていく中で、お年寄りの思いにしっかり向き合って接しているからできることだと考えています。お年寄りはみんな居心地よさそうです。そのような穏やかで本人本位の雰囲気醸成されている「のぞみホーム」で、それぞれの生活の一部のお手伝いを今後もさせていただきたいと考えています。



だいじょぶにゃん通信

発行 特定非営利活動法人のぞみ会
六美南部地区の地域福祉を考える会
〒321-0216 栃木県壬生町壬生丁145-10
TEL 0282-82-7204 FAX 0282-82-7254
発行人 渡辺 みゆき
編集 だいじょぶにゃん通信 編集部 奥山 久美子
協力 六美南部地区自治会
のぞみホームを応援する会
URL <http://www.nozomi-h.org>
MAIL nozomi-h@guitar.ocn.ne.jp

編集後記 今回の「にゃん通信」は読みごたえバッチリ。まだまだ読み足りないという方はぜひ「みんなのハウス」へ。寄付頂いた絵本や漫画や小説が並んでおります。100円で「みんなのハウス」開放中です。読書に趣味に勉強に仕事に…ぜひ活用してください。Wi-Fiもつながってますよ。実は私も集中したい時など利用してます。駄菓子をつまみながら、いつもの席へレッツゴー！

